

SHIEN アカデミー Press

Vol.16 SHIEN学というあり方へ

INDEX

- ・ 代表理事からのメッセージ SHIEN学を学ぶということとは……………P1
- ・ SHIEN学アドバイザー 城 保江 (SHIEN学アドバイザー) ……………P2～P3
- ・ SHIENアカデミー活動報告
 - 長崎 アドバイザー講座 高木 和歌 (SHIEN学アドバイザー) ……………P4
 - 福岡 天分発見ワークショップ 松田 瑞恵 (SHIEN学アドバイザー) ……………P5
- ・ 今後の予定 (3つのコースとセミナー) ……………P6
- ・ 私とSHIEN学との出会い (シリーズ最終回) 初代牧之原市長 西原 茂樹 氏 ……………P7～P8
- ・ 編集後記

SHIEN学を学ぶということとは

SHIENアカデミー代表理事 たておか やすを

SHIEN学の基本中の基本原理は、「重なりのないところに、重なりを創り、させる・させられることを交換するのではなく、してもらう・してあげることと交換すること」です。今SHIEN学は、札幌、岩見沢、大石田、浜松、長崎、福岡、東京、大阪、熊本、福井などで急速に広まると共に、北欧や中国など海外でも紹介され、実践されています。そして、各地で講演やワークショップをすると、参加者から「SHIEN学はどうやって学べますか」と尋ねられます。

2つの入口があります。アドバイザーコース・マスターコースと天分発見ワークショップです。天分発見ワークショップはいずれ詳しく触れますが、まずこのアドバイザーコースを受けてくださる多数の方々がいらっしゃいます。そして、アドバイザーの資格を取って巣立っていくのですが、最近とても興味深いことを体験しました。

SHIEN学アドバイザーやSHIEN学マスターの資格を取って1年くらい立った方々と、候補生と一緒に会議をしたのです。すると、候補生の方は、「SHIEN学は会社の建て直しにどう使えるのか」とか「自分はこの会議でどのように役立てばいいのか考えます」と発言されます。一方、資格をとって一年くらいたった方々に共通しているものは、自然に互いに心を

開き、天分を引き出しあっていて、大変優しい雰囲気を取り巻いて醸し出しているのです。この両者の違いが、お分かりになるでしょうか。

「SHIEN学は自分の外にあるのではなく、その人がSHIEN学、温かな場になるのです」1年間の間に、もちろん常識や今までのあり方を乗り越える葛藤があったことは間違いのないです。「する科学」ではなく、気がついたら「なる・なっている科学」ここがとても大切なことを読者のみなさんとしっかりと共有したいと思います。すると、平和の創り方や政治のあり方も大きく変わっていくのです。



Photographed by Yasuwo TATEOKA

SHIEN学アドバイザー



城 保江 (SHIEN学アドバイザー)

SHIEN学との出会い

「はい、そこの貴女、お名前は？」200名を超える講演会場でSHIEN学ってなんだろうと思いながら館岡先生の講話を聞いていた私に、突然壇上から投げかけられた先生の言葉です。びっくりですね。叱られたのかと思いました（笑）。これが私と館岡先生とSHIEN学とのご縁の始まりです。

この館岡先生の講演会は、五井平和財団という団体によって開かれたもので、私はその賛助会員になっています。この五井平和財団は世界中の人々が平和で幸せに生きられる世界を目指して活動している団体で、一年に2回ほど、日本や世界で素晴らしい活動をしている人の講演会を開催しています。ですから、ここで紹介されたSHIEN学はきっとこれからの新しい世界に必要なものだと思います。

その後、館岡先生よりセミナーに誘っていただき、スローペースでアドバイザー講座を受け、SHIEN学アドバイザーになりました。

私のこと

私は小さいころから、人間はなぜ生きているのだろう、と考えていました。人生の目的は何かと小学生の頃から考えていたのです。父が古代神道や真言密教に興味があったことも影響していたのだと思います。父はよく「人の人生は、自分の魂を磨き上げ

進化することだ」と言っていました。そのため我が家では、毎朝祝詞をあげ禊（みそぎ）をするのが日課でした。小学生の私も、どんなに寒い冬の日でも、風呂場の大きなバケツに水をため、禊の祝詞をあげ水をかぶり学校に行っていました。変な小学生でしょう？寝るときもその日一日の罪穢れを祓い給え、清め給えと水をかぶって寝ていました。高校生になると、日本を、世界をよくするにはどうしたらいいかと考えるようになっていました。

そして、私はこれからの世の中を背負っていく子どもたちを育てようと思い、教育学部に入學して教育者の道に進みました。現在は大学で講師をしています。専門は第二言語習得と日本語です。アメリカの大学、そして日本の大学での日本語教育に携わって約30年になります。

日本語とSHIEN学

第二外国語としての日本語を研究していくうちに、日本語の素晴らしさ、そしてその背景にある日本人の精神性に気がつくようになりました。

例えば、「お蔭様」です。「お蔭様」はどういう意味だと思いますか？英語で単に「Thank you」と訳してある本もあるのですが、ピッタリとした訳語があるわけではなく、長い文章で説明することになります。

次ページへ続く▼

▼前ページよりつづく

「お蔭様」とは、自分が一人で生きているわけではなく、ありとあらゆるものと繋がり、その恩恵のもとに生かされていることへの感謝が含まれています。

「敬語」はどうでしょう。身分制度からできたものだからいらないと勘違いしている人もいるようですが、「敬語」はもともと、森羅万象、八百万の神々に捧げる「ウタ」（音を伸ばして朗詠すること、響き）であった「祝詞」に起源を発するという説があり、大自然への畏敬の念を表す日本人の精神性、世界観が原点となっていると言われています。生かされている命の尊さ、森羅万象への感謝の心、それが相互尊重の精神となり、それを表しているのが敬語なのです。

どうでしょう。何か気がつきませんか？そうです。SHIEN学が大切にしている、「利他性」と「SHIEN」です。SHIEN学の「利他性」とは、決して自分を犠牲にして相手のことを優先させることではありません。それは、森羅万象との繋がり、自他一体感をベースにした他者への「思いやり」を基本としています。まさに「相互尊重の精神」の精神に基づいています。また、SHIEN学の「SHIEN」は、困っていない人が困っている人を助ける「支援」ではなく、対等な関係でお互いがお互いの力を必要としてそれぞれの力を引き出していくことを指しています。様々な個性や能力を持った人たちが、それぞれの存在に感謝しながら、お互いの持つ力を出し合って問題を解決していく、そのベースにも「相互尊重」「お蔭様」の精神が流れています。

SHIEN学が提唱する「プロセスパラダイム」と未来型の「コースパラダイム」の到来も、もともと日本人が持っている、森羅万象とつながり「お蔭様」と感謝をしながら自分の尊厳と他者の尊厳を尊重する精神を思い起こすことでパラダイムシフトが起こっていくのだと思います。

そのために、時を選びこの世に誕生したのがSHIEN学なのだと思います。



これからの私とSHIEN学

宮崎中央新聞の編集長水谷氏からお聞きした話です。食べていくための仕事を「ライス(Rice)ワーク」、好きでやっていく仕事を「ライク(Like)ワーク」、一生をかけてやる仕事を「ライフ(Life)ワーク」、そして、人々や社会、世界のために働くことを「ライト(光)ワーク」と言うそうです。

私は大学で教える今の仕事が大好きです。このまま70歳の定年まで続けて行くつもりです。ですが同時に「ライト(光)ワーク」を全面に押し出して活動していくことにしました。自他一体感や思いやりの心は見に見えませんが、しかし、その大切さはだれでもわかっています。ただ忘れていただけなのです。私は、SHIEN学と日本語講座を癒合せたワークショップを開いて、たくさんの人々がもともと人間に備わっている相互尊重に基づく自他一体感を思い起こすお手伝いをして行きたいと思っています。

舘岡先生がおっしゃっている「科学」は、目に見えないものを実証不可能といって排除する狭義の「科学」ではなく、「目に見えるもの」と「目に見えないもの」を融合させた新しい「科学」だと思います。理論的な「目に見えるもの」を左翼とするなら、感性や感覚的な「目に見えないもの」は右翼。そのどちらが欠けても未来に向けて飛び立つことはできないのです。左翼も右翼もうまくコントロールしながら、乗客を乗せて、新しい未来の世界へ飛び立つのが、私たちSHIEN学を学んだパイロットなのだと思います。

SHIENアカデミー活動報告

長崎 アドバイザー講座



高木 和歌 (SHIEN学アドバイザー)

「九州でもSHIEN学を学べたらいいなあ・・・」

その思いで、舘岡先生を初め、皆様のお力でSHIENアカデミー長崎はスタート致しました。

SHIEN学マスター伊藤めぐさんによる、初！アドバイザー講座、ワクワクの中で当日を迎え、参加者7名、めぐさんとコタツを使っの講座で、一気に温かい場が創造されました。

今回は福祉＊教育の現場と繋がりSHIENに出会われた方が多く、すばらしい発表が続きました。各々が生きる現場で実践してパラダイムシフトを進め、第3スペースへと見つめる方々が繋がる場。

穏やかで、濃いながらも爽やかな、めぐさんに導いていただいた1日は魔法のような時間で、気づきが多く、私は必死でメモしておりました。

見えないものを見つめ、温かな場を創造できる人づくりとSHIEN的在り方をしてきた方の集う場にこのアカデミーがなっていきますように。どうぞ皆様のお力添え宜しくお願い致します。



SHIENアカデミー活動報告

福岡 天分発見ワークショップ



松田 瑞恵 (SHIEN学アドバイザー)

2月9～10日、福岡にて1泊2日で天分発見ワークショップが開催されました。福岡市内はもとより、東京、埼玉、滋賀、兵庫、奈良、名古屋、佐賀、長崎と全国津々浦々からご参加！総勢18名での天分発見への旅が始まりました。

場所は、都心にほど近い清川あるカフェ『GALA de AEU(ガラドオウ)』。天井高く、広い窓ガラスに囲まれた店内には、緑と光が差し込み、本当に心地よい空気感の流れる場でした。

自分の人生の振り返りでの内省と、かつて歓楽街としての面影をかすかに残す清川周辺を散策しながらの内観を体験し、あらゆる感情と向き合い、受け取り、そして、参加者同士の人生にも同じように寄り添いあっていくものでした。

そうして、涙が自然に込み上げ、笑顔が輝くようにあふれていく温かな天分発見への場が立ち上がっていきました。



「SHIEN学を深く学ぶ3つのコース」とセミナーのご案内

SHIEN学をさまざまなスタイルで学び、活躍していただくために、これまでの「ファシリテーション（アドバイザー・マスター）コース」に加え、SHIEN学「SHIEN学を深く学ぶ3つのコース」として「プラクティショナーコース」「シンポジウムコース」を新設しました。各コースは次のような内容です。

コース名	内 容	コース構成	開催日
ファシリテーションコース	SHIEN学の講演、ワークショップを有償で実施したい人向け。 SHIEN学アドバイザー、SHIEN学マスターの資格取得ができます。	基礎編 応用編 実践編	年6回予定 (関東・北海道・長崎)
プラクティショナーコース	SHIEN学を自分の生活に取り入れて実践し、生活の質を上げたい人向け。有償講演等はできませんが、SHIEN学をより深めたい方に最適なコースです。	基礎編 応用編	年6回予定 (関東・北海道)
シンポジウムコース	二人以上のコース修了者で有償・無償のSHIEN学に関わるイベント開催が可能です。イベント実施にあたってのシナリオをアカデミーよりご提供します。	基礎編 応用編 実践編	年6回予定 (関東・北海道)

●2019年度の開催日程

日 程	地 域	開催講座	会 場	申 込
5月11日(土)	東 京	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	コレクティブハウス ワカミヤハイツ コモン ルーム(東京都足立区西新井4-40-4)	受付中
5月12日(日)	東 京	SHIEN学セミナー	Cayabaccio (東京都中央区日本橋茅場町 2-7-3 イースト・インタービル1階)	受付中
5月18,19日 (土,日)	九州/熊本	天分発見ワークショップ 熊本 ①	TAO Retreat & Café (熊本県阿蘇市一の宮町萩の草107-1)	受付中
5月25,26日 (土,日)	九州/福岡	天分発見ワークショップ 福岡 ②	カフェGALA de EAU (ガラドオウ) (福岡市清川2丁目9-2タイセイビル1階)	受付中
6月8,9日 (土,日)	北陸/福井	天分発見ワークショップ 福井 ①	越前市ハッ杉森林学習センター (福井県越前市別印町19-11)	受付中
6月29日(土)	九州/長崎	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	Soul Blossom (長崎県島原市弁天町1-7055-1)	受付中
7月6日(土)	北海道/札幌	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	札幌 Café tone (札幌市北区北23条西10丁目1-6)	受付中
7月7日(日)	北海道/札幌	マスター講座	札幌 Café tone (札幌市北区北23条西10丁目1-6)	一般公募 なし
8月31日、 9月1日 (土,日)	九州/福岡	天分発見ワークショップ 福岡 ③	カフェGALA de EAU (ガラドオウ) (福岡市清川2丁目9-2タイセイビル1階)	受付中
9月7日(土)	東 京	SHIEN学を深く学ぶ 3つのコース	S/S/A/W東京都品川 (東京都品川区荏原5-15-15)	受付中
9月28,29日 (土,日)	北陸/福井	天分発見ワークショップ 福井 ②	越前市ハッ杉森林学習センター (福井県越前市別印町19-11)	受付中
11月30日、 12月1日 (土,日)	北陸/福井	天分発見ワークショップ 福井 ③	越前市ハッ杉森林学習センター (福井県越前市別印町19-11)	受付中

お問い合わせ、ご参加ご希望の方は、メールでお知らせください。

一般社団法人SHIENアカデミー 静岡

お問い合わせ/お申込み shien.academy.1@gmail.com

<http://www.shien-academy.jp>

<http://www.facebook.com/shiengaku/>

SHIEN 学と私の出会い (シリーズ最終回)

初代牧之原市長 西原 茂樹



前回まで

市長職を満期辞職されてからの西原さんは、人口減少と地方経済の縮小に喘ぐ、行政と中小企業の挑戦の活路として、中国との連携をサポートする社団法人MIJBCを立ち上げられます。文化が異なる国際間での本音の対話にもSHIEN学の方が活かされていきます。

MIJBCと対話への挑戦

初めての訪中は、静岡県と浙江省が友好交流を始めて10周年の1992年でした。今では富士山静岡空港から浙江省の省都、杭州は直行便でわずか3時間ですが、当時は伊丹空港から上海虹橋空港に飛び、そこからバスで7時間近くと、静岡から1日以上かかりました。その際、浙江省へホテル一棟をプレゼントしましたが、戦後補償と経済支援の名目で、それが当たり前の時代でした。

訪問の帰路、香港に寄り、当時破竹の勢いで世界戦略を取り続けて、東アジア・中国での展開を進めていたヤオハンの和田会長にお会いしました。2年後に上海へのデパート進出を決めていた和田さんに質問をしました。「中国は共産党国家だから進出して財産を没収される心配はありませんか？」 厳し目にそう聞いた私に、和田さんは、笑みの中に眼光を光らせながら、「西原さん！先の大戦で勝ったのはどこですか？中国です。負けた日本がこんな豊かな生活をしていて、勝った中国は貧乏です。私は彼らに豊かになってほしい。だから経済支援・進出をするんです。共産党がよこせというのなら差し出す覚悟ですよ！」

3年後、上海のデパートがオープンし、数か月後にはヤオハンが破綻しました。前後して上海に静岡県が事務所を設置しました。当時香港に事務所を作ろうとしていた県に対して、和田さんの言葉に触発

された私が、議会で知事に上海を強く推薦したことによって実現しました。

今でも浦東に残るヤオハンビルがその足跡を物語っています。以来、浙江省や上海を中心に中国へは100回近く訪問して多くの友人と交流してきました。

特に4年ほど前から、経済成長が著しい中国の友人たちにこんなことを提案しています。「今までは、ずっと日本が中国に対して経済や技術の投資をした。その結果GDPで日本を追い抜き、さらにAIIB（アジアインフラ投資銀行）などは、一帯一路政策の名のもとに世界中へ投資を進めている。そんなに豊かになったのなら、そろそろお返しとして日本に投資をするべきじゃないか！」というわけです。

地方創生が叫ばれていますが、元気が良いのは東京と大企業だけです。地方と中小企業は人口減少と地方経済の縮小に泣いています。日本の中小企業にはまだまだ素晴らしい技術がありますが、外に打って出ようという気概を失いかけています。逆に中国の企業は、投資意欲が旺盛で14億人の消費者がいます。彼ら中国企業が日本に来て魅力的な中小企業に投資し、Made in Japanの製品を中国や世界に販売していけば両者がWin-Winの関係になります。それが4年前から提唱しているMIJBC (Made in Japan by China) です。

中国企業と日本企業や自治体の橋渡しがMIJBCセンターです。私が理事長を務めています。全国の自治体や中小企業が、そんな取り組みができればと、牧之原市が率先して国の地方創生の予算を獲得して挑戦しました。残念ながら日本人の「中国嫌い」はとてもネックでしたので、まずは中国国内の政府や地方政府そして日本と経済交流をしてきた企業の皆さんに提案しました。

次ページへ続く▼

SHIEN学と私の出会い

(シリーズ最終回)

▼前ページより続く

実は、中国企業の経営者には悩みがありました。中国の中小企業の平均寿命は2.7年です。次々と、売られ買われ、起業・倒産が繰り返される中で、経営や技術の継承に問題があることを彼らも理解しています。彼らの悩みをSHIEN学の考え方で話し合うことにしました。人の話など聞かず、頭から怒鳴り否定し、しかも自分の弱点など言おうものならやられてしまうと思っている彼らが、果たしてテーブルを囲んでできるか心配でした。そこで、場を整えるために、よくありがちな、「一人だけ話さない」、「頭から否定しない」、「楽しい雰囲気で」、などをグラウンドルールとして、事前に中国語で書いていきました。

特に最初の頃は、現地の通訳とのディスカッションから始まりましたので、通訳次第で伝わり方が変わります。話して行くと「この訳し方では理解されない。」と、お互いの文化背景に配慮して、講座開始寸前まで模造紙やパソコンの訳し方を配慮して修正しました。通訳の方と気心が知れてくると、逆にとても楽になりました。そうして、見事に場が成立しました。

昨年、安倍首相が訪中し習近平総書記と「第3国協力、イノベーション、金融、高齢化」で協力することを約束しましたが、今まで国家間・企業間で反目し競争してきました。急に仲良くできるはずはありません。

唯一それを可能にするためには、お互いの話をしっかり聴いて「対話」を行い、両者の信頼関係（パートナーシップ）を深めることからスタートです。そのためのファシリテーターとして、今後も私たちMIJBCセンターの果たす役割は大きいと考えています。

※中国の行政や企業と、本音の対話ができる、温かな場の創造には、その場で気づいたことをグラウンドルールづくりに反映し、一つ一つ関係を深めていかれたのですね。文化が違っても、そこに配慮があれば、場が立ち上がる一　とても励まされます！また、MI JBCこそは、重なりのないところに重なりを創って「してもらう・してあげる」を交換するSHIENそのものだと思います。

[illegible]

編集後記

先日久しぶりにSHIENワークショップの進行役をやらせてもらいました。3つのグループが同時進行していく中で、各グループに初めての人、数回経験した人、もう何十回も経験した人、がそれぞれいらっしゃいました。状況を見ながら全体に進め方の声かけして、皆さんの表情や声の調子を見ていました。どの人もだんだんと心を開き、優しい眼差しになり、そのうちに嬉しさを隠さない子供のようにさえ思えるような表情でした。初めての人も、もう何度も経験している人もです。心の温かさに包まれていくのは、こんなにも人を解放するものなのだと、改めて思ったのでした。その日、誰ともなく誘い合い、コンビニに寄って、桜の花びらこぼれる近所の公園で打ち上げをしました。心満ちる時間は人生に活力を与えてくれるものですね。

櫻井 田絵子 (SHIEN学マスター)